

第3版の序

本書の初版が発行されてから、早くも14年が経ちました。第2版（2014年刊行）では、増刷の度に小幅な改訂を重ね、多くの方々にご愛用いただきました。この間に寄せられた貴重なご意見やご希望に、あらためて心より感謝申し上げます。

近年、生物学を取り巻く科学情報は飛躍的に拡大し、質的にも大きな変化を遂げています。生命のもつ共通性（一様性）についての知識は、科学技術の進歩と共に急速に蓄積され、その学問領域は「生命科学（life science）」とよぶに相応しい広がりを見せています。生命とはなにかという問いが、科学的手法で解き明かされつつあるのです。そのため、生命体にかかわる膨大な量の情報が集まり、さまざまな場面で応用されています。例えば、遺伝子やゲノムなど生命プログラムに関する情報は、病気の予防や新しい治療法の開発に、さらにクローン技術は生産性の高い植物品種や動物の改良など、医療・農業・産業の多方面で活用されています。このように生命科学がもたらす情報は、まさに“多様性”に満ちています。

しかし、生命科学の全領域を短期間に学ぶことは容易ではありません。だからこそ、まず生命の共通性をしっかり理解し、自らの知識として定着させることが重要です。それが多様な分野の学びを広げる確かな土台となり、“多様性”の知識の習得も容易になります。

知識の蓄積、学習の方法は人さまざまかと思いますが、本書では、限られた紙面の中で、生命体の姿やしぐみを知る糸口が得られるよう、内容を簡潔かつ的確にまとめました。章構成は前版と同じく全12章とし、講義のカリキュラムを立案しやすくしてあります。また、ご要望をいただいた重要語の英語と用語リストを章末にまとめ、確認問題とともに読者の方が振り返りやすい構成としました。

編集をご担当いただいた出版社の方々のご協力により、第3版はさらに見やすく、より学習しやすい内容となったと自負しております。

前版は「キリンの生物本」と呼ばれましたが、第3版は「シカの生物本」として、読者の皆様にますます親しんでいただけることを願っております。本書が、生命科学へのより一層の興味と理解を深める一助となれば幸いです。

2025年11月

著者を代表して

南雲 保